



”きんかんだより”

第 14 号

金沢大学肝移植者友の会

令和 6 年 2 月 29 日 発行
金沢大学肝移植者友の会事務局

1. 第 14 回総会の開催予定等について

新型コロナウイルス感染拡大により総会を休止いたしておりましたが、5 類移行に伴い日常生活も取り戻しつつあり会の開催を検討しております。

とはいえ重篤なリスクを抱えている移植者であるため開催時期や開催方法（インターネット利用等）を慎重に考え開催いたしたいと思っています。

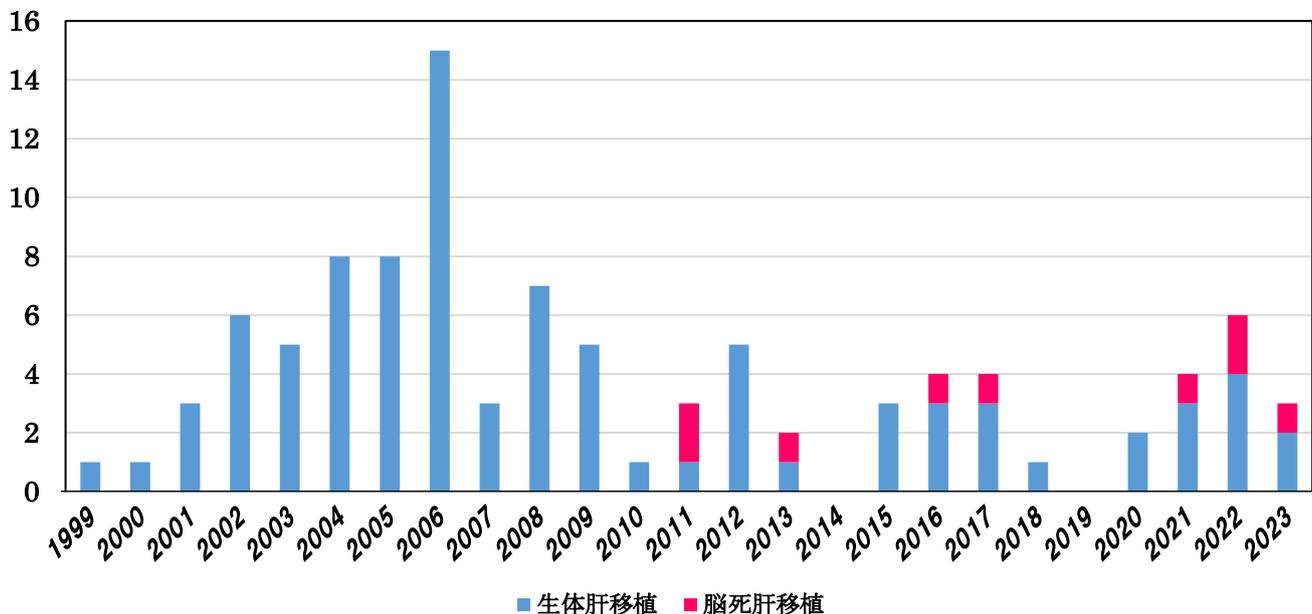
能登半島地震や冬季である事を考えますと夏頃になると思います。

具体的な日程等が決まりましたら皆様にご連絡いたしたいと思います。

最近の情勢などをご報告させていただきます。

（1）金沢大学附属病院における肝移植手術件数が 100 件に到達いたしました。

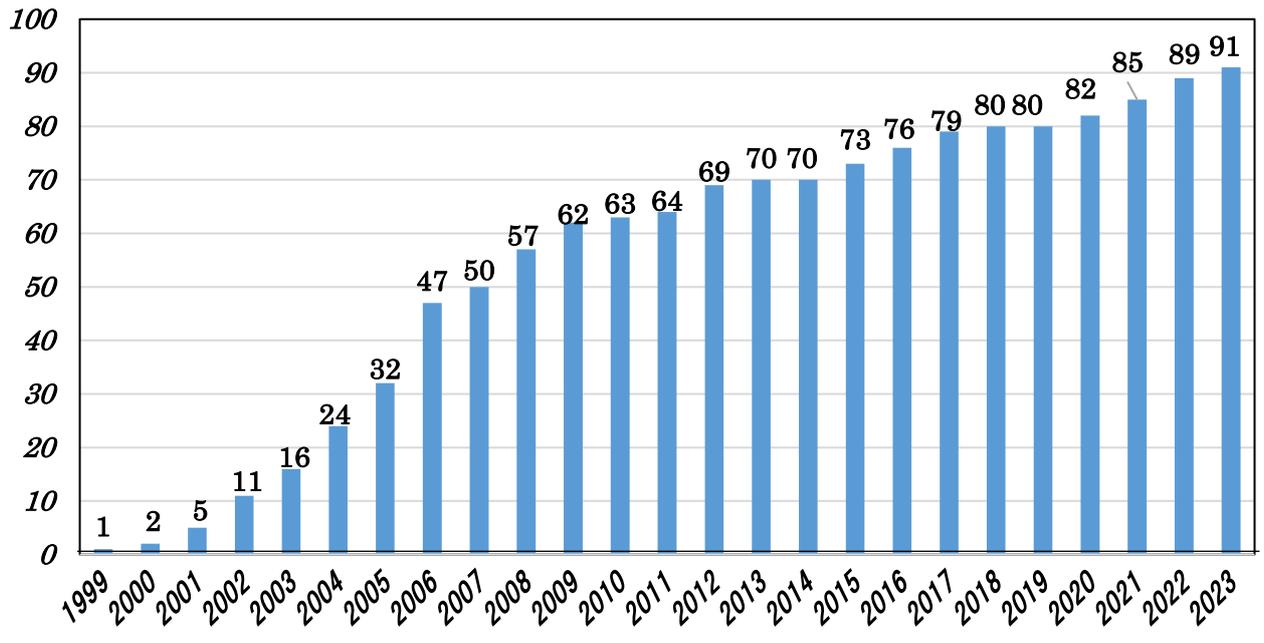
金沢大学附属病院における肝移植の手術件数



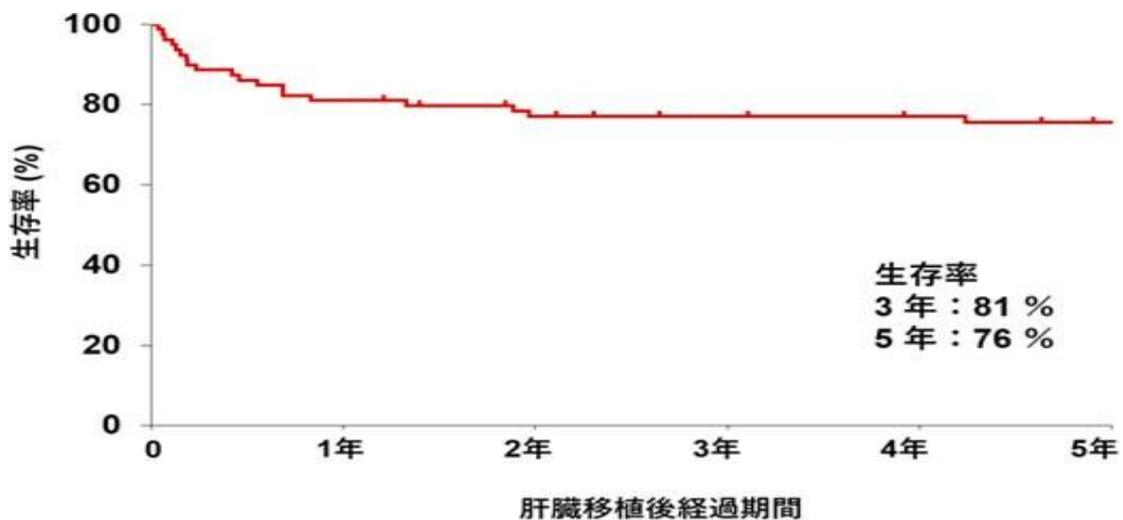
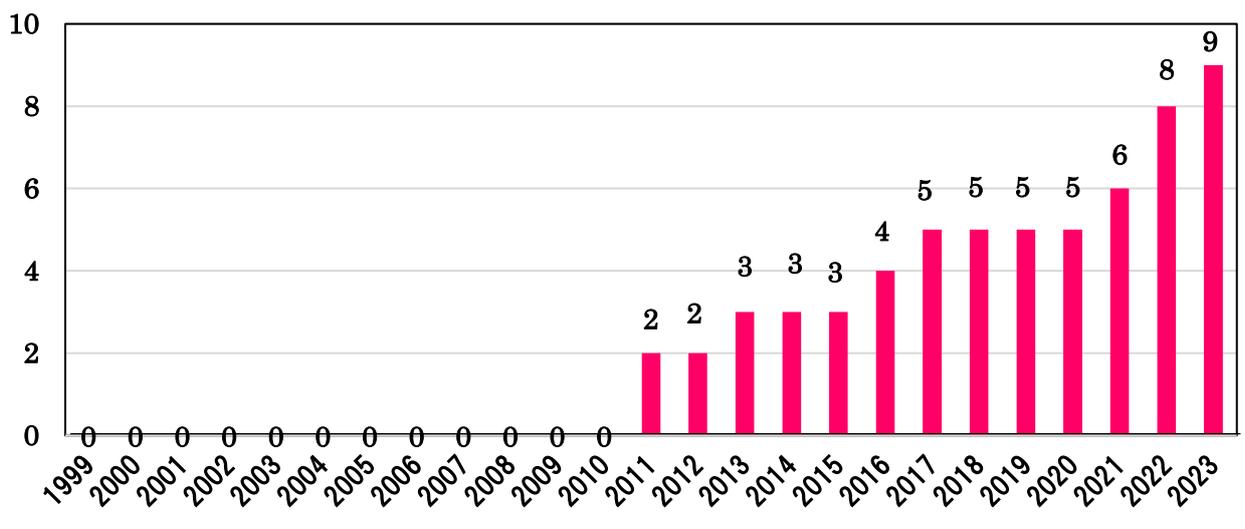
2023 年 4 月までに生体肝移植 89 例（再肝移植 1 例）、脳死肝移植 8 例が行われております。

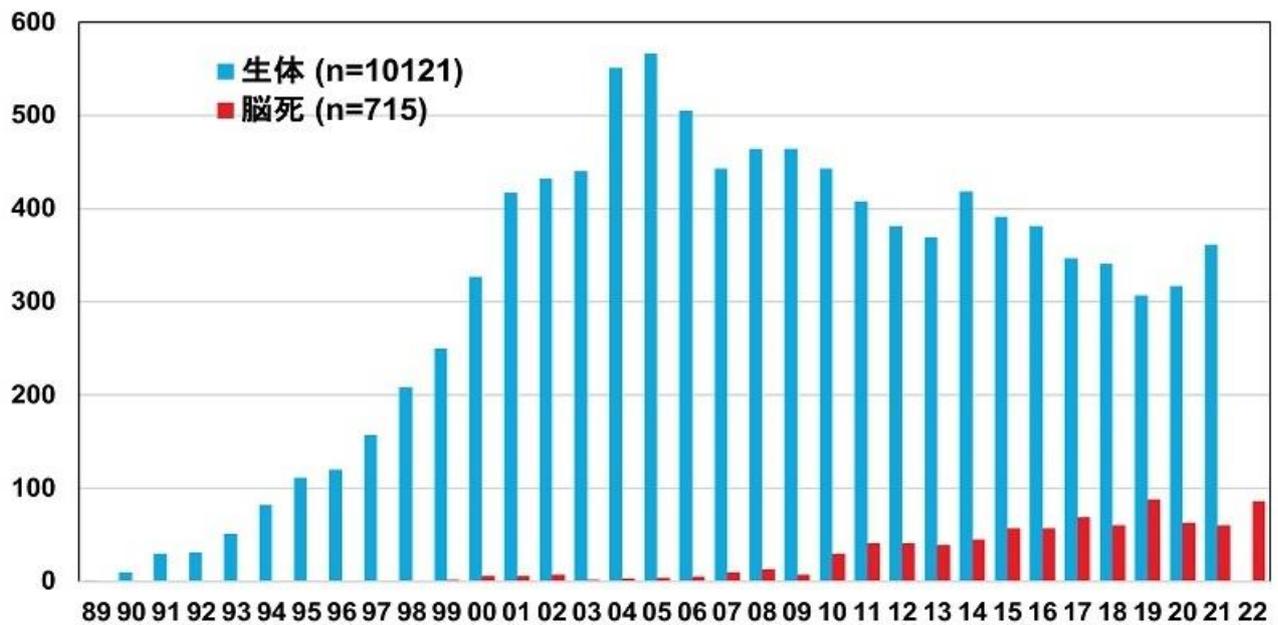
なお、2024 年 1 月現在では、生体肝移植 91 例、脳死肝移植 9 例が行われ 100 件に到達いたしました、下図のとおり全国と比較しても遜色ない良好な治療成績を得ております。

累積生体肝移植

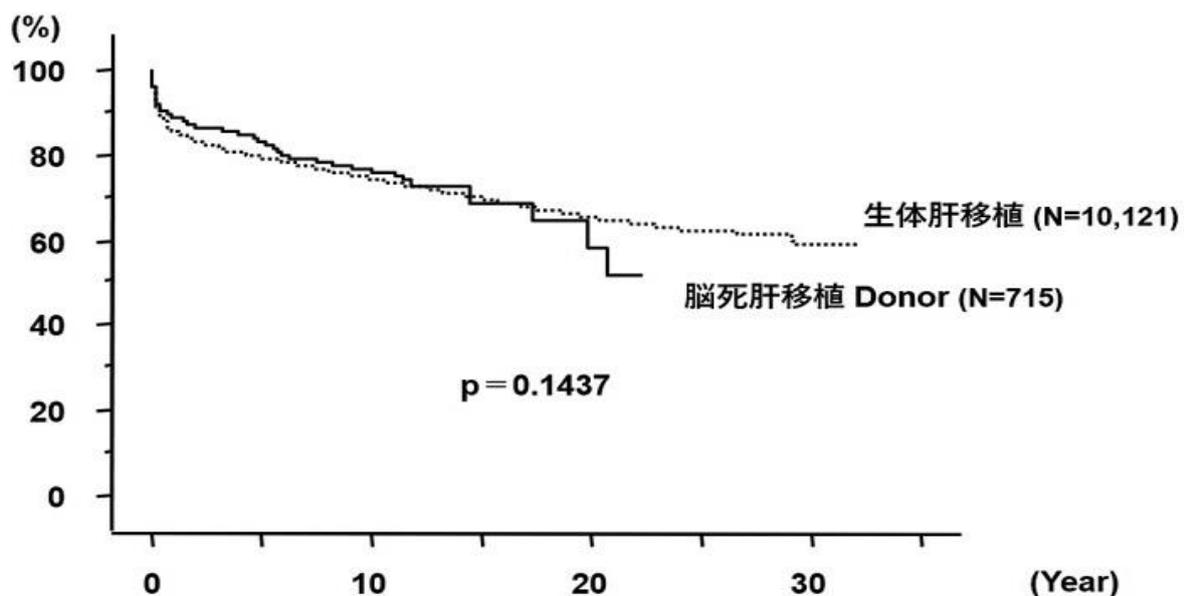


累積腦死肝移植





日本における肝移植数



日本における肝移植の患者生存率 —生体肝移植 vs. 脳死肝移植—

生体肝移植は1989年の開始以降、毎年着実に増加を続け2005年に570例のピークに達した後、2006年に初めて減少に転じ、ここ数年は300例前後となっていますが2021年には一万件を突破しました。

脳死肝移植2009年までは年間2~13例にとどまっていたましたが、改正法が施行された2010年は30例と著明に増加しました。

新型コロナウイルスの蔓延の直撃を受けた2020年前年と比べ脳死ドナー数は減少し2021年も同様の傾向でしたが2021年終盤はドナー数の増加がみられ、2022年は86例に達しました。今後の新型コロナウイルス感染症の収束と脳死ドナー数の増大が期待されます。

ファクトブック2022 日本移植学会資料より

移植患者における累積の新型コロナウイルス感染者

2022年8月31日現在の感染者数:1148名

患者詳細情報

(2022年8月31日現在)

移植臓器	心臓	肺	肝臓	腎臓	膵臓	小腸
人数	13	21	237	875	1	0

年代	10歳未満	10歳代 ～20歳代	30歳代 ～40歳代	50歳代 ～60歳代	70歳以上	未入力
人数	64	149	375	454	103	3
うち、死亡者数	0	0	1	16	13	0

	男性	女性	未入力
性別	713	432	3

	あり	なし	評価不能	不明	無記載
37.5℃以上の発熱	938	195	0	3	12
咳嗽	542	573	1	3	29
咽頭痛	480	627	1	3	37
鼻汁	158	942	1	3	62
臭覚異常	42	1043	1	3	59
味覚異常	56	1030	1	3	58
呼吸困難感	135	962	1	3	47
倦怠感	487	594	1	3	63
その他	関節痛 24、悪寒 11、腰痛 2、頭痛 45、嘔気・嘔吐 21、下痢 42、 水様下痢、腹痛 11、食欲不振 12、食事摂取量減少 2、筋肉痛 3、 深呼吸時に若干の胸部違和感、軟便、胸痛 4、 微熱(37.2℃～37.3℃)、嘔気 11、食欲低下 3、 脱水、鼻閉 3、不眠、喀痰 4、結膜充血、足の痛み、咳嗽 ワクチン 1 回目接種済み 2、ワクチン 2 回目接種済み、 筋肉痛、腸炎症状、肺炎所見、消化器症状、胃部不快 SpO2: 92～93% (R・A) とやや低値 2、SpO2 低下、イレウス 軽度の呼吸困難感、感冒症状、体重減少、喘息様咳嗽 咽頭痛(タバコが原因の可能性あり)、咽頭違和感 2				

	治癒	治療中	再陽性	不変	死亡	未入力
治療予後	897	122	2	0	30	97

日本移植学会 COVID-19 対策委員会資料より

2022年8月31日現在で肝移植の感染数は237件で移植患者の21%を占めております。

感染者は男性が62%、女性が32%となっております。

また、死亡者は50歳以上が殆どです。

(2) 肝胆膵・移植外科学教授に八木真太郎氏が就任されました。

2020年12月金沢大学医薬保健研究域医学系肝胆膵・移植外科学教授に八木真太郎医師が京都大学より着任されました。

先生は数多くの肝移植手術を実施されており、手術を沢山こなすだけでなく、その施設から「何かを発信する」事も、非常に大事だと言っておられます。

当会の活動にもご理解頂き大変有難く思っております。

是非、先生の動画解説をご覧ください。

“ドクターおしえて 生体肝移植とは”

https://www.youtube.com/watch?v=1n_Sfli6XWk

他にも多くの動画で治療方法の解説をされています。

「改めて知りたい臓器移植」、「すい臓がん！あきらめないで」、「すい臓がんを根治するための治療法」等

(3) 医師からのコメント

肝胆膵・移植外科 中沼伸一

皆様、金沢大学肝移植者友の会を通じて、当院の肝移植医療を見守って頂き誠にありがとうございます。コロナウイルスの蔓延により、直接お会いすることが出来なくなり、大変残念に思います。レシピエント、ドナー、その家族の皆様にとって「きんかんの会」は、情報交換ができる大切な場であり、是非とも今後も継続できればと思います。

近況を報告させていただきます。2020年12月に八木真太郎教授が着任され、京都大学での多数の肝移植経験よりご指導頂き、2023年12月までに肝移植件数は100例となりました。今後も北陸の最後の砦として、肝不全治療に貢献したいと存じます。

肝移植を進めるためには、外科医のみならず、内科、コーディネーター、麻酔科、集中治療部、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、事務など多数のスタッフの協力が必要です。本院では2021年に臓器移植センターが開設され、同センターを利用し、定期的なミーティングを開催して情報共有を進めることで、肝移植がスムーズに行われるように診療を行っております。

また肝移植では長い手術に加えて、慎重な術後管理が続きます。これまで主に外科医が担ってききましたが、同時に長時間の時間外労働が発生していました。また昨今、外科医減少が大きな問題となっております。外科医の労働環境の改善、また医師の働き方改革を進めなければ、質の高い肝移植医療の継続が困難となります。そのため、現在は2チーム体制で肝移植症例を交互に担当したり、術後は集中治療部に支援を頂きながら管理を行うことで、外科医の負担軽減を行っています。サステナブルな肝移植医療を目指しております。

以上、大変簡略な近況報告となりましたが、これからも本院における肝移植医療にご支援頂

ければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

(4) レシピエントの声

「生体肝移植から 20 年経過」

糸田敬弘

私が生体肝移植手術を受けてから 20 年が経過しました。
当初は 5 年生きれば良いなと思っていましたが合併症が続きとても無理だなと思っていました。

しかし、医師の方々の努力により 10 年が経過しました。

これで大丈夫かなと思ったら悪性リンパ腫を発症し、またも挫折してしまいました。

「悪性リンパ腫」のタイプは、「非ホジキンリンパ腫」の「びまん性大細胞型 B リンパ腫 (DLBCL)」でした。聞いたことのない病気でした。

治療法は、R-CHOP 療法です。免疫抑制剤の副作用との事でした。

この発症および新型コロナウイルスにより総会を開催する事が出来なくなり会の皆様には大変申し訳ないと思っております。

20 年前の事を考えると最近インターネットに肝移植に情報があふれております。

20 年前は殆ど情報もなく医師からの説明も全くと言って良い程理解できませんでした。

最初のころは 1,500 万円ほどかかるので家を売る覚悟でしたが会社の方々や同僚の支援により何とか乗り切る事が出来ました。

今は保険も適用されるので良いですね。私達の時代はお金の都合がつかず亡くなられた方がいましたね。

医師の方も移植の話を出して良いか苦労したと言っておりました。

ホームページを立ち上げてから 20 年弱になりますが医師・コーディネーターにも家族にも相談できないと言ってメールを頂いております。

殆どはドナー該当者で、自分しか該当者がいない等です。

私の希望として、北陸にもドナー外来があれば良いなと思っています。

ドナーあってのレシピエントですから切に希望いたします。

2. 新規会員の紹介

八木 真太郎 様 (肝胆膵・移植外科 教授・診療科長)

関 晃裕 様 (消化器内科 医師)

西山 里美 様 (正会員)

以上の 3 名の方が入会されました。今後ともよろしくお願いいたします。

3. 訃報連絡

見瀬 和雄 様が「生体肝移植の記憶 一わがミレニウム」 東京図書出版を出版後、他界されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。